

## 米国大統領選：民主党指名争い

(本稿執筆は1月30日)

## I. 民主党予備選

## 目指すは党大会

7月13～16日にウィスコンシン州・ミルウォーキー市で開催される民主党全国大会に向け、2月～6月にかけて各地で予備選が行われる。党大会では大統領候補、副大統領候補、政党綱領（party platform）を決めるために全50州・コロンビア特別区・海外領土から4,754人の代議員が集結する。（今年はボランティア、ドナー、報道陣、その他関係者を含め、50,000人が押し寄せると予想されている。）言うまでもないが候補の目標は党大会で指名を獲得することであり、そのためには党大会の指名投票で過半数を確保する必要がある。各地で行われる予備選は、候補の得票率に応じて党大会に参加する代議員の「枠」を割り当てる手続きである。

党大会までに指名候補  
が決まらない可能性？

党大会前のある候補が代議員の過半数を獲得して「指名確実の候補」（presumptive nominee）になり、党大会の指名投票（roll call）は名目だけの行事になるのが一般的な流れ。（勿論、党大会は本選に向けて党を団結させる重要な行事でもある。）他方、指名投票で勝者が明らかでない場合、勝者が決まるまで党内の激しい交渉と決戦投票が続くことになる。このことを一般的に“brokered convention”、“contested convention”と呼ぶ。現時点でバイデン、サンダース、ウォーレン、ブテジェッジの4候補の混戦が予想されている他、圧倒的な資金力で従来の選挙モデルをディスラプトしようとする大富豪ブルーム

以前よりもアウトサイダー・フレンドリーな予備選

バークの存在感が高まる中、党大会前までに明らかな勝者が決まらない可能性は例年以上に高いという解説も少なくない。

また、今回の党大会は2016年に採択された党則により、民主党のインサイダーで構成される特別代議員は（明らかな勝者がいる場合を除き）初回の指名投票で投票できない。これは2016年民主党予備選で特別代議員の大半が早期にクリントンへの支持を表明し、予備選前からアウトサイダーのサンダースを不利にしたという苦情に応じた規則変更。しかし、この変更により早期に指名確実の候補が現れない、即ち“brokered convention”の起因になりうる規則という見方もある。

2020年特有の要素は様々

同時に、候補者が例年以上に多いこと、現職トランプ大統領の首位候補を標的としたネガティブ・キャンペーン、同大統領の弾劾手続きなどを背景に紆余曲折の予備選が見込まれる。本稿ではこうした一連の動きの枠組みとなる民主党予備選のプロセスと今期特有の要素について解説してみた。（尚、共和党予備選にはビル・ウェルド元マサチューセッツ知事、ジョー・ウォルシュ元下院議員が出馬しているが、トランプの共和党支配は圧倒的。共和党全国委員会は昨年1月に現職のトランプ大統領への“undivided support”を宣言した決議を採択。既に20州では予備選・党委員集会を中止しており、共和党党大会は名目だけの行事になる。）

## II. 予備選と党大会のプロセス

予備選で競うのは誓約代議員の「枠」

前述の通り、党大会までに明らかな勝者が決まらないシナリオの一因として特別代議員の影響力を縮小した党則がある。その影響を説明する前に、まず民主党予備選と党大会の基本的な枠組みを説明しておく。

民主党代議員団のうち、775人は予備選の結果に問わず、自身の意思で投票できる特別代議員<sup>1</sup>であり、主に党幹部、政治家などのインサイダーで構成される。残る3,979人は、各地予備選の結果に応じて投票する候補が予め固定される誓約代議員（pledged delegates）である。言い換えれば、候補者たちが各

<sup>1</sup> 一般的には“super delegates”と呼ばれるが、今回からは自動的に代議員に“automatic delegates”に名称を変更。

2020年党大会から第一投票でカウントされるのは誓約代議員のみ

指名候補が決まらない場合、状況は不透明に

地予備選で競うのは党大会に出席する誓約代議員の「枠」ということになる。（この「枠」にはめ込まれる誓約代議員を誰にするかの決め方は、州によって手続きが異なる。）

次に、党大会で代議員票の過半数に達した候補が指名を獲得すると説明したが、今回は2016年に民主党が採択した党則<sup>2</sup>により、党大会の初回の投票では、「指名確実の候補」（presumptive nominee）が存在しない場合、或いは存在しても誓約代議員・特別代議員の過半数の支持が確実でない場合、投票は誓約代議員に限定される。（両代議員の過半数を超える支持を得た指名確実候補が存在する場合、誓約代議員、特別代議員の全員が初回から投票できる。）

初回の投票で指名候補が決まらない場合（brokered conventionの場合）誓約代議員は解放され（自身の意志で投票できるようになる）、同時に特別代議員による投票も許可される。そうすると決選投票では誓約・特別代議員をあわせた4,750票の過半数（2,375.5票）を獲得した候補が指名される。党内の激しい交渉と代議員の本音が錯綜する党大会で何が起きるだろうか。

### III. 民主党予備選の全般的な流れと今期特有の注目点

IA, NH, NV, SCの4州を舞台とした序盤戦

このプロセスの序盤戦では2月のアイオワ党員集会（3日）、ニューハンプシャー予備選（11日）、ネバダ党員集会（22日）、サウスカロライナ予備選（29日）を舞台に合計155人の誓約代議員が競われる。代議員の数は全体の僅か3.9%だが、代議員を確保できる候補とできない候補の違いは大きい。<sup>3</sup>候補の有望性と勢いを評価する最初の機会であり、惨敗を喫する候補は脱落に追い込まれる。また、アイオワ・ニューハンプシャーでは白人が9割以上を占めるが、有権者の多様性が一気に増す3月以降の予備選の方向性を考察する上で、ネバダ（ヒスパニック票）、サウスカロライナ（黒人票）は参考になる。

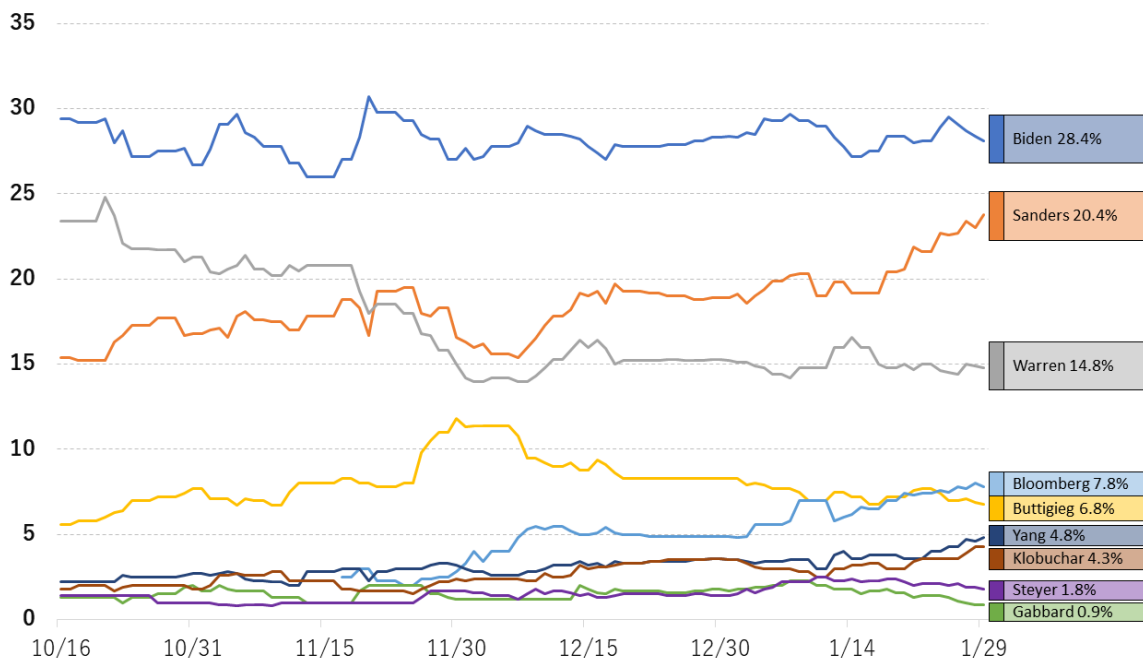
<sup>2</sup> 近年では民主党のインサイダーで構成される特別代議員の影響力が問題視されており、2016年民主党予備選で多くの特別代議員が早期にヒラリー・クリントン候補への支持を表明したことで同氏が有利になったことが問題になった。同年の民主党全国大会に先立って同党規則委員会は特別代議員の改革決議案を158-6で可決

<sup>3</sup> 1992年に成立した党則により民主党予備選で誓約代議員を獲得するためには最低でも15%を得票する必要がある。

首位を争う候補たち

今年（既に撤退した候補を含め）28人が立候補した異例の乱立。現時点で12人に絞り込まれているが、アイオワ党員選挙では首位を争うジョー・バイデン前副大統領、バーニー・サンダース上院議員、エリザベス・ウォーレン上院議員、ピート・ブティジェッジ前市長（インディアナ州・サウスベンド市）の4候補による混戦になると予想される。残る候補の中でワイルド・カードと言われているのが最新の世論調査で7%を記録したエイミー・クロブチャー上院議員。

図表1 2020年民主党大統領候補の支持率（全国）



出所：Real Clear Politics 主要世論調査平均（1/28 現在）

図表2 2020年民主党大統領候補の支持率（アイオワ州）

		年齢	RCP Avg	Monmouth	IA State Univ	Emerson
			12/27-1/12	(544 LV) 1/20-1/27	(655 LV) 1/23-1/27	(450 LV) 1/23-1/26
サンダース	上院議員 (VT)	78	23.8	21	24	30
バイデン	前副大統領	77	20.2	23	15	21
ブティジェッジ	前サウスベンド市長	37	15.8	16	17	10
ウォーレン	上院議員 (MA)	70	14.6	15	19	11
クロブチャー	上院議員 (MN)	59	9.6	10	11	13
ヤン	起業家	45	3.8	3	5	5
ステイヤー	資産家	62	3.6	4	4	5
ギャバード	下院議員 (HI)	38	2.0	1	2	5
ブルームバーグ	元 NY 市長	77	1.0	--	1	--

出所：Real Clear Politics（1/28 現在）

予備選開幕と重なる弾劾裁判の影響

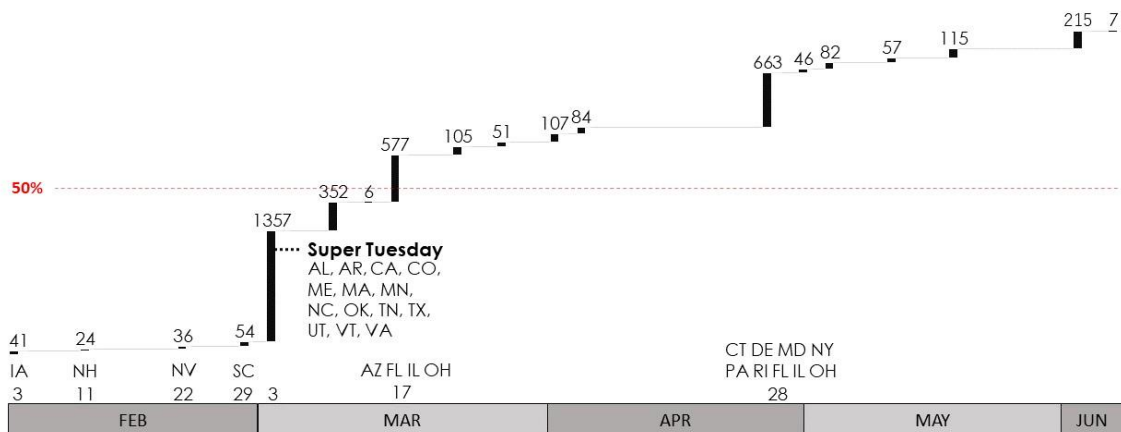
ただ、今回の「異例の乱立」もそうだが、それ以上にアイオワ  
 党員集会の直前にトランプ弾劾裁判開廷という前代未聞の展開  
 もみられる。手続きの詳細は未定だが、上院規則<sup>4</sup>によれば裁判  
 の陪審員を務める全上院議員 100 人は判決が下されるまで毎週  
 6 日間（日曜日を除く）裁判に出席しなければならない。

上院議員のサンダース、ウォーレン、クロブチャー、ベネット  
 の 4 候補の出席も余儀なくされるため、裁判が続く間は選挙運  
 動に割り当てられる時間も大幅に制限されてしまう。この異常  
 事態に応じて、ワシントン中継のテレビ集会や知名度の高い代  
 理人による集会など、初戦アイオワまで何とか凌ごうするが、  
 本人無しでは萎靡沈滞。前回のクリントン弾劾裁判（1999 年）  
 と同様に 5 週間続けばアイオワだけでなく、ニューハンプシャ  
 ー予備選にまで影響する。それ以上長引けば、首位を争うサン  
 ダースとウォーレンに相当の影響が及ぶだろう。

最大の山場となる 3 月  
 3 日のスーパー・チューズ  
 デー

それを乗り越えれば、予備選で最大の山場となる 3 月 3 日の  
 「スーパー・チューズデー」が待ち受けている。14 州、米領サ  
 モア、海外在住民主党で合計 1357 人（全体の 34%）の誓約代  
 議員を争う一大行事だ。今年は大票田のテキサス（228 人）に  
 加え、予備選を前倒したカリフォルニア（415 人）が同日開  
 催する。この時点で有力候補としての地歩を固めていない候補  
 は次々と脱落していき、指名候補が明らかになる 4 月末まで接  
 戦が続くというのが例年のパターンである。

図表 3 2020 年民主党予備選・誓約代議員配分の推移



<sup>4</sup> [弾劾裁判の上院規則](#)（1868 年）

**選挙モデルのディスラプションを図る大富豪****2020年特有の構造的な要素も／分極化が進む民主党の行方は？**

もう一つの見どころは、スーパー・チューズデー以降の予備選に莫大な組織と資金を注ぐ大富豪・元ニューヨーク市長のマイケル・ブルームバーグ候補。11月24日に出馬を表明したばかりだが、全米の世論調査平均<sup>5</sup>では既に5位。外部の献金を受けず全て自己資金で賄う選挙運動で、既に2.17億ドル、他候補合計の2/3に値する巨額をテレビ・ネット広告に投じている。しかも、候補の勢いを示す上で重要な序盤戦4州を素通りし、スーパー・チューズデー以降の30州で1000人以上の選挙組織を構築している。同氏による過去のニューヨーク市長選や、銃規制や気候変動に関する慈善活動でもそうだが、圧倒的な資金力で成果を出すモデルをそのまま大統領選で再現しようとしている。選挙テーマはトランプの再選阻止で、自分が指名獲得せずとも、その莫大な資金力で民主党候補を支援する方針を示しており、「選挙ディスラプター」として注目される。

この他、歴史的に低い米中間選挙の投票率が2018年中間選挙で約40年ぶりの高水準（53%→2014年から11%増）であったこと、特に若年層（18～29歳）の投票率が前回比で80%増加（2014年・20%→2018年・36%）しており、この熱意を背景に民主党の左傾化が急伸するのも注目される。その一方で「打倒トランプ」が最大のモチベーションとなり、当選できる可能性が最も高い候補（electability）で、分極する民主党が統一され、「トランプの時代」に終止符を打てるのか、極めて“consequential”な選挙になりそうだ。

以上／上原聡

本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、丸紅米国会社ワシントン事務所（以下、当事務所）はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。

本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当事務所は何らの責任を負うものではありません。

本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。

本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当事務所の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。

<sup>5</sup> 出所：[Real Clear Politics](https://www.reclear.com/)